

小袋谷あれこれ

小袋谷の地名について

小袋谷は今「コブクロヤ」と読みますが、鎌倉では谷を「ヤツ」とか「ヤト」と言い、谷の地名も「ナントカガヤツ」と呼んでいたようです。小袋谷も大昔は「コブクロガヤツ」と呼んでいたかも知れません。又、小袋谷の「コブクロ」の漢字表記は、巨福礼、小福礼、巨福呂、巨福路など過去いろいろありましたので調べてみました。

小袋谷の地名を見ることが出来る一番古い文献は、徳川家康が江戸幕府を開く百年以上前の、円覚寺塔頭雲頂菴に残る一五〇一年の文書で、「巨福礼谷」と書かれています。箱根神社所蔵の一五一九年の文書には、「小ふくろや」と書かれており、表記が「小袋谷」に定まるのは江戸時代に入ってからようです。

戦国時代以前の文書には谷の字がついていない名が散見できます。「小福禮」は一二八四年の円覚寺所蔵文書その他で見れます。鎌倉時代の史書である吾妻鏡一二四一年の箇所には「山内巨福礼」と載っています。一三四七年に撰文された建長興國禪寺碑文の中には「巨福禮郷」と書かれ、この郷名から建長寺の山号を「巨福山」としたと記されています。この山号から建長寺辺りの字名は巨福山となりました。北條氏照の一五八一年の文書には「小袋之郷」と書かれています。巨福礼郷と言われた地域は、当初は小袋谷だけでなく山ノ内や台の市場、粟船山の辺りまで含んでいたようです。

巨福礼と小袋坂の地名の由来に関係があるかどうか不明ですが、小袋坂についても調べてみると、新編鎌倉志には雪ノ

下から建長寺前へ出る切通しと書かれています。どこまでが小袋坂なのかは諸説あります。雪ノ下には小袋坂という字名があり、坂の頂上が村境でした。吾妻鏡一二三五年の箇所には「小袋坂」が鎌倉の北の境として載っています。一遍聖絵には「こふくろさか」で上人が追い返されたと記されています。太平記には鎌倉幕府が倒される一三三三年の戦に「巨福呂坂」が出てきます。鎌倉を守る要害の地でもありました。

地名の由来について触れた文献はほとんどなく、はっきりとしたことはわかりません。皇国地誌には言い伝えとして、巨福路のうち低地域を「巨福路谷」と名付けたと載っています。巨福路については、峠から見た山並みを巨富が連なっている様に見立てた瑞祥地名と書いている地名辞典が一つあるだけです。

「コブクロ」のアタマにある「コ」は修飾語ですので、「フクロ」の語源を調べてみますと、膨れるという意味の古語「フクル」から派生した語で「フクラ」や「フクレ」と同根だそうです。又「フクレ」が転化し「フクロ」になったとも言われ、さらに池川などの水に囲まれた袋状の地形という意味も持っています。又、中国古代の膨れるという意味の語が変化した漢字の中には、富や福があります。アイヌ語では袋のことをフクルと言うなど似た言葉があります。

「谷」はヤツやヤチの意味（低湿地、湿泥地）でアイヌ語のヤチと同義です。

昔の人がいつどのような意味をこめて名付けたかわかりませんが、巨こきくなくても小こさくてもいいから住民が福を感じられ、互いに礼の気持ちを持てるような地域であることを願っています。